



# 大晦日の意味と由来



年の瀬が近づき、大晦日まで今年も残すところ  
あとわずかとなりました。



この「大晦日」は、旧暦に基づいた呼び方です。  
今回は大晦日の歴史についてお話します。



## 大晦日の意味と由来

晦日の由来は、旧暦上、月の最終日(末日)にあたります。

旧暦では「新月から数えて30番目の日」を「三十日(みそか)」と呼んでいました。新暦に変わり月の最終日に31日があらわれて一年の最後の晦日、つまり12月31日を「大晦日」と呼ぶようになりました。大晦日は、新しい神様を迎えるために寝ないで待つ日とされ、早く寝ると白髪になるという言い伝えもあります。

大晦日の夜は、「除夜(じょや)」とも言い、神社では、火を焚いて厄祓いの神事を行ったり、お寺では、除夜の鐘を撞いたり、さまざまな年越しの行事が行われています。

「晦日(みそか)」は別名「つごもり」とも呼ばれます。

陰暦では15日に満月となり、月末になると月が見えなくなってしまうことを月隠(つきごもり)といいます。月隠(つきごもり)が訛り、「つごもり」になりました。

\*晦(つごもり)、晦日(つごもり)どちらも使われています。



## 除夜の鐘の意味

全国のお寺で鳴らされる梵鐘を「除夜の鐘」と言い108回撞きます。

108とは仏教思想に基づく百八煩惱を意味しています。大晦日の夜に鐘を撞く音を聞くことで、煩惱を取り除き清らかな心で新年を迎えようという意味が込められています。108回のうち1回は年が明けてから撞きます。これは、今年一年、煩惱に惑わされないようにという意味が込められています。

## 大晦日の歴史

平安時代の頃から始まったといわれています。大晦日は、豊作をもたらすといわれている「歳神様」を元旦に迎える準備の日とされていました。

大晦日の風物詩である「年越し蕎麦」は江戸時代の頃から食べられるようになりました。

金箔職人が、飛び散った金箔を集めるのにそば粉を使ったことから、年越しそばを残すと翌年、金運に恵まれないといわれています。他にも、細くて長いそばに因んで、「来年も細く長く幸せに暮らせるように」という願いを込めたり、あるいは、そばが切れやすいことに因んで、「今年一年の苦労を切り捨てられるように」と願うなど、長寿や健康を願った縁起物です。

インフルエンザなど感染症拡大が続いています。  
健康管理には十分気をつけ、新年を迎えましょう。

